潮騷通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



仲間の力を結集して 実りあるフォーラムを実現



何となく気ぜわしい年の瀬です。皆様お変わりありませんか。1年間の反省をすべき時期ですが、今回は11月23日(勤労感謝の日)に開催した「潮騒リカバリーパレード&12周年フォーラム」について振り返ります。お蔭様で成功裏に終える事ができ、私の中に次に繋がる新たなエネルギーを蓄積させてくれました。12周年フォーラムでは、①試行的ながら潮騒単独でリカバリーパレードにも挑む②「義理と人情と神の愛~主役は仲間たち」のテーマを掘り下げる一に主眼を置きました。耳慣れないですが、「定型の超克」という表現があります。決まりきった形のものを、その内部のエネルギーによって固い殻を打ち破り、新たなものに創り上げていくという意味です。私は自分達の活動を常に地域に開いていく意味から、困難でも潮騒フォーラムは毎年取り組もうと仲間達に呼び掛けています。失敗やマンネリ化傾向も見られますが、今回はみんなの思いが一つになって力を合わせれば、これだけ実りあるフォーラムを実現できるのだと思い知らされました。

とりわけ頭が下がったのは、裏方で働いた目立たぬメンバーの奮闘ぶりです。それが組織的に動いた事の素晴らしさです。このダイナミックなパワーは潮騒独自の持ち味です。恐らく普段からの深い信頼関係が下地になっているのだと思います。目には見えない魂の繋がりの、不思議な霊的な力を感じざるを得ません。私もダルクをつくった近藤恒夫さんと同じように妄想に近い夢を抱き、結果的に仲間の力を得てそれを実現する、という形で施設を発展させてきました。その推進力は潮騒の特徴である仲間達の秘めたるカーマンパワー(女性も含む人材力)にあります。今回の"潮騒リカパレ"も首都・東京での開催に取り組む実行委メンバーに潮騒が加えられた事で、私の中に「潮騒の地元の鹿嶋市でもやれるのでは…」との熱い思いが芽生えました。それだけにパレードと、これに続くステージパフォーマンスを下支えしてくれた本家リカパレの仲間の皆さんには、感謝の言葉しかありません。

ところで潮騒は図体が大きくなった分、外圧だけでなく内部矛盾も生じています。でも、守りに入ってはいけないのだと思います。有難い事にフォーラムのトークセッションでは近藤・トム・マーシーのゲスト3人が潮騒の今後について、貴重な意見を披歴してくれました。近藤さんは「ぼくの夢はユタカさんに預けていく」「生き残りを考えなくていいよ」との方向性を示し、トムさんは脇を固めながらハイヤーパワーの計画による神の愛の恩恵を語り、マーシーは笑いを交えて私の歩みを評価してくれました。これらを通し私は、自分の過去の生き様だった義理と人情の背後にある「受けた恩に報いる」ことの意味合いを、今度は依存症からの回復(途上)者として、神の大きな愛と霊力に包まれながら力まずに歩めばいいんだと確信しました。なので、私を含め「主役は仲間たち」のフォーラムテーマを、それなりに体現できたと思います。当初、このテーマをどう掘り下げたらいいのだろうと悩みましたが、私の生き方と施設運営スタイルに相応しいテーマを与えてくれたスタッフに心から感謝しています。潮騒JTCの活動に新たなイメージを付与するフォーラムとなりました。 (センター長 栗原 豊)



潮騒版リカバリーパレード(リカパレ)には、東京や横浜からリカパレ実行委の皆さんも参加し、人口6万7千の鹿嶋市に潮騒旗やリカパレの旗をはためかせた100数十人のパレード隊が午後12時半から約30分間、市内中心部の国道124号沿いなどを練り歩きました。その盛り上がりのまま室内会場の「12周年フォーラム」へと移り、"リカパレステージ"が実現。本家リカパレ隊に潮騒のエイサー隊も加わり、リカパレコーラス隊のリードで歌声が会場に響きました。

この後、栗原センター長が主催者挨拶に立ち、引き続き ▽法務省水戸保護観察所長の押切久遠氏 ▽鹿嶋市健康福祉部長の津賀利幸氏 ▽医療法人梨香会理事長の秋元伸夫氏―の来賓から挨拶を頂きました。仲間の話では、卒寮した潮騒〇Bやデイサービス百寿亭スタッフ、潮騒家族会の杉本勇蔵会長からメッセージがありました。ゲストによるトークショーでは、近藤恒夫・坪倉洋一・田代まさし(マーシー)の3氏が、今回のテーマ「義理と人情と神の愛~主役は仲間たち」の意味合いを掘り下げてくれました。締め括りは潮騒&首都圏ダルク有志による連合エイサーの演舞で、今年は女性施設「るみの家」メンバーが躍動し、最後は会場の参加者や仲間達も登壇して一緒に踊り、大いに盛り上がって幕を下ろしました。



∮ リカパレは潮騒ジョブ(茨城・鹿嶋)が ∮ 加わり全国8カ所に

M リカバリーパレード東京 城間勇

潮騒のパレードとフォーラム、とても楽しく良かったです。数十名の小規模なパレードを勝手に想像していたのですが、実際には100数十名?の参加になり、横断幕やのぼりを掲げながらの、そして歌とシュプレヒコールを叫びながらの素敵なパレードになりました。あとで聞いたのですが、来年以降もパレードを実施するとのこと、とてもうれしく思っております。これでリカバリーパレードは全国8か所(仙台、東京、神奈川、関西、広島、北九州、沖縄、そして茨城=潮騒)で行われるようになりました。

リカバリーパレードは社会の偏見、差別を無くすために行いますが、個人の回復にとっても大きな効果があります。それは、意志が弱いという社会の偏見が依存症者の心の中に作り出した「恥ずべき病気をもつ恥ずべき人間」という自己認識が改まることです。そう、今回のパレードで歌った「いいんだぜ」の歌詞の通り、自分が依存症でも統合失調症でもその他の何かの病気でも、いいんです!「よくない」のは回復の努力をしないことです。回復はどこにでもあります。いえ、どこにでもあるようにしていきましょう。日本全国津々浦で、回復の喜びの声が聞こえるように…。





12周年フォーラムから見えた 栗原流ビジョン

NPO法人·潮騒JTC 理事 白田美鶴さん

潮騒ジョブの皆さん、12 周年フォーラムお疲れ様でした。当日は、あいにくの雨模様でしたが、初のリカバリーパレードも無事クリアし、短縮型であわただしいひと時ながらも、ステージ登壇者の皆さんの言葉とそのメッセージにより、一年に一回の大イベントも無事に終了し、大成功だったと思います。主催者挨拶で栗原さんは「義理と人情と神の愛」というテーマの意味するところを、人情(そのときどき支えられた人々)によって今の自分が在る。受けた恩義は数倍にしてお返しする。その恩に応え、よりよく生きることこそ、神の愛による導きだ。この流れこそが最強の愛の力だ――と、力強く説明されました。

近藤さんは他力本願で、肩ひじ張った使命感や自身の 思いによってダルクを設立したわけではなく、すべては "自然の必然性(神の導き)"に従い、現在のダルクは日本 全国に増えていった。私はダルクを大きくしようとも増 やそうとも思わない。ダルクが必要であれば無くならな いし、不必要なら無くなるだけ――そう説きました。力み がまるでなく、空気のような自然体で、風に吹かれて揺れ るタンポポのような存在(カリスマ)に思えました。人と 人が良い方向に行くのも、悪い方向に行くのも出会いで あり、支えであり、人間関係が大きく左右することが分か りました。

栗原さんのアクティブな行動力は一見過ぎたように見えて、よく見てみると無理がなく、まるで必然性という人生の旅のようです。潮騒の活動を特徴づける就労支援も、入寮者が集い合うデイケアセンターの整備も、潮騒で亡くなった仲間の葬儀も自分達の墓地確保も、すべてが必要だからの取り組みです。潮騒食堂「おらげのかまど」も自立支援の一環であり、施設を支える収入(わずかでも)の役割です。潮騒農業を支える農業隊の存在も、施設にとっては自然な流れの中で生まれた必要不可欠な存在です。

栗原さんの心の中には世に数多いビジネスマンのように、カネもうけ(利益追求)の発想は少しも見受けられません。全ては潮騒の今後に必要だからであり、できるだけ多くの苦悩者を救おうとするためであり、今より少しでも良い社会づくりを目指す、栗原流視点(ビジョン)だと言えるように思います。

フォーラム帰り際、私は栗原さんに言いました。「栗原さん。あなたのやっていること、やろうとしていることは、必然性があり、不自然ではない。潮騒は必要であれば続くし、必要がなければ続かない。でも、今、必要だからこそ、孤立せずに、こうして続いている。栗原さんには仲間が居り、神も居る。何よりも潮騒の活動は、神によって許されている。どうか今後もアクティブにリードしてほしいと思います。…期待しています」と。ありがとうございました。





地元警察との交渉役を任され 舞台裏の苦労を実体験する ^{潮騒JTC}トム

今年の潮騒12周年フォーラムは肩の力を抜いて、「主役は仲間たち」をキーワードにプログラムが進行しました。注目は、初めて潮騒JTCが取り組んだリカバリーパレードでした。潮騒はリカバリーパレード「回復の祭典」の第1回(2010年9月、東京・新宿)から参加していて、それなりに経験を積んできました。これが自信となり、春頃から会議で「潮騒でも地元の鹿嶋でパレードに挑戦しよう!」との議論が高まり、スタッフを中心に準備が進められました。

当日は朝から雨模様でパレードは厳しいかなと思っていましが、昼12時近くには雨が上がり、栗原センター長の掛け声とともにパレード隊が鹿嶋勤労文化会館を出発しました。「依存症は回復できる病気です!」とコールしながら市道、国道124号に出る頃には、なんと雲間からうっすらと日が差してきたではありませんか! 私は思わず「これこそ神様(=ハイヤーパワー)の応援だ!」と心の中で叫びました。

今回のパレードで、私は仲間の推挙で地元の鹿嶋警察 署との交渉係を担う事になり、慣れない体験に腐心しました。公道でのパレードは道路使用許可が必要になります。 法律的な面に加え様々な配慮や対策、了解が求められる事 など、結果的には貴重な社会勉強をさせてもらいました。 ただ、私にとって全く初めてだっただけに、弱気になった面は否めません。警察の立場は十分に理解できるとしても、あれこれ規制の多いのには参りました。一時はルート変更を提案され窮地に立つ場面もありました。しかし、支援者の原田雅也さんの心強い協力によって活路を見出し、計画通りのコースでの行進に許可が下りました。相手の立場に配慮して譲る部分は譲りながらも、信念に従って自分達の主張を粘り強く主張する、ディベートに通じる交渉術を学んだ思いです。

パレード自体は30分ほどでしたが、仲間と共に進めたプログラムは想像していた以上に楽しく、仲間の力を引き出してくれました。仲間達との間で培った深い信頼はとても大事なことだと改めて感じています。パレード終了後、隊列はその熱気とエネルギーを会場のホールに移し、リカパレ仲間のステージパフォーマンスとなって弾けました。壇上では「潮騒フォーラム乗っ取り!」と称して、リカパレコーラス隊と潮騒有志メンバーによる舞台が繰り広げられました。自分も参加していてとても楽しかったです。

その後、潮騒12周年フォーラムに移りましたが、昨年に 比べ来場されたお客様が多かったようです。潮騒も少しず つ地域の中に溶け込み、いつしか「潮騒アディクション村」 の構想もいい意味で形を変え地域の方の駆け込み寺に なっていったら素敵だなと思います。「主役は仲たち」を実 感できたフォーラムでした。









私にとって ^{感想文} 感謝と感動のフォーラムだった

今年はフォーラムを午後の時間帯にしたのでコンパクト にまとまり、プログラム構成も進行もスムーズだったと思 う。スタッフに「フォーラム慣れ」があるとしても、準備と撤 収が意外に早くできたのは収穫だった。残念ながら "潮騒リ カパレ "には参加できなかったが、初めての試みにしては 大成功だった。パレードを終えた仲間達の顔には、どことな く自信と喜び、達成感が伺えた。

私は今年もバックヤードの仕切り役を与えられ、大切な弁当 係も担った。昼食に関しては、支援のエイサー隊やリカパレ隊 の人数を事前に把握していたものの、当日になって「お弁当が 余分にあるなら…」と求める声が結構あり、やはりお祝い事で あることを考えて、多く用意すべきだったと反省している。お腹 を満たせる程度の、ちょっとしたおにぎりや簡単なお弁当を少 し多めに用意するよう提案したい。また、お弁当の対応に追わ れてバックヤード全体への目配りができず、一部スタッフを孤 立させてしまった。でも、喫煙場所の徹底はうまくいったので 良かった。前年の反省を踏まえた事前準備の成果だと思う。

フォーラムでは仲間の話が心に響いた。トークショーで は、潮騒をよく知る渋谷ダルクのトムさんが「これからはセ ンター長の脇を固める時期」と強調されたが、私も同感だ。 連合エイサーも素晴らしく、特に女性陣との混合ステージ は出色だった。潮騒エイサーは年々、力量を上げている。デ

イケアの責任者として嬉しかったのは、デイケアに所属する スタッフが私の意を汲んで率先して動いてくれた事、そして 若いメンバーや新しい仲間が、スタッフと同じように的確な 動きをしてくれた事。これこそ司令塔冥利に尽きる。今回は 私にとって感謝と感動のフォーラムだった。

感想文

エイサー演舞の最後は やっぱり少し泣いてしまった

去年のフォーラム後に私はスリップしてしまい、半年間 エイサーをできずにいました。今年の6月から復帰させて もらい、もう二度と同じ過ちを繰り返さないと心に誓いま した。メンバーも増え、施設長も加わり、私のエイサーがま たスタートしました。教わる立場から教える立場にも替わ り、プレッシャーと程よい緊張感の中での練習は辛いとき もありました。一時はバラバラになりそうだったエイサー も隊も、改めて一致団結して本番に臨みました。

フォーラムは一人も欠けることなくステージに上がりたい。 その思いが10月半ばに絶たれそうになりました。仲間の脱走、 そして入院…、悲しくて辛くて腹が立ちました。でも、ステージ 上から「るみの家」のみんなや両親の姿が見え、この一年の 頑張りを見てもらえて最後は少し泣いてしまいました。そん な私も、もうすぐクリーン1年です。依存症の怖さと向き合 いながらゆっくりと日々過ごしたいと思っています。母に言 われた「あなたの笑顔、素敵だった」の言葉を忘れずに、来 年もまたとびきりの笑顔でエイサーを舞いたいと思います。

横浜から母が見に来てくれたことが ^{感想文} 何より嬉しかった

12 周年フォーラムは "リカパレ" からのスタートでした。 天気が良くなかったので「パレードは無理かな?」と思われ ていましたが、なんとか歩くことができました。私は初め てのことだったので、寒さも嬉しさがカバーしてくれまし た。続くフォーラムでは、エイサーの演舞ができることが 私にとって大きなものでしたから、気持ちの上では密かに 高揚していました。 バレエを習っていた頃に舞台で踊るこ との快感を得ていたので、今回もわくわく感がありまし た。横浜から母が見に来てくれたことが、私にとっては何 より嬉しいフォーラムになっていました。

実は父が亡くなって10日ほどだったため、私の心の中には 常に父の顔が浮かんでいました。亡き父には様々な思いがあ り、言いようのない寂しさと悲しみがこみ上げ、私の中に黒 い影が潜んでいました。けれども母と会えてゆっくりと話を する機会を得たことで、この日は心も和みました。エイサーは 他の応援ダルクが加わったことで舞台いっぱいになり、迫力 あるステージになったと思います。仲間とともに賑やかな舞 台で晴れ晴れとした雰囲気の中に居られたこの一日は、とて も幸せでした。落ち込みがちな私ですが、エイサーの演舞 で思いっきり体を動かせたことが良かったです。

ぴのこ 緊張したけど大舞台で思いっきり ^{感想文} エイサー演舞ができた

「るみの家」につながって初めて年に一度の施設最大イベ ント、12 周年フォーラムに出席させて頂きました。沢山の お客様が見え、女性の仲間たちがつくったクラフトバッグや ぞうさんタオルを買って頂き、嬉しかったです。今年初めて 取り組んだ"リカパレ"では、残念ながら会場の周辺を歩く ことができませんでしたが、そのアイディアには驚かされま した。家族への短いメッセージでしたが、私にその場を与え てくれたことに感謝しています。とても緊張していました が、横に施設長が居てくれたことで助かりました。

一度はいろいろな面で悩み、施設長を困らせてしまった 私ですが、エイサーでチーム一丸となったところを家族や仲 間たちに見せる人ができ、何より大舞台で踊れたことが貴 重な体験となりました。とても緊張しましたが、思いっきり 演舞ができてとても楽しかったです。教えてくれた仲間、出 演させてくれた仲間、一緒に踊った仲間に感謝します。最後 に家族から「楽しいステージだったね」と言われた時に、自 分を変えるプログラムをしっかりとやって、自分自身を変え なくては…と改めて思いました。ありがとうございました。



「なぜ人は依存症になるのか」を 考えるフォーラムに

「NEWSつくば」スタッフライター 崎山勝功さん

「依存症は寂しさの病」。かつて栗原豊センター長から 聞いた言葉を思い返しながら、潮騒リカパレ&12 周年 フォーラムを取材しました。「鹿嶋市で初めて」というリカ パレは、曇天ながらも栗原センター長が先頭に立って潮 騒旗を振り、潮騒の仲間たちが国道124号歩道を練り歩 いている姿が印象的でした。毎年秋に首都・東京で開催 される本家リカパレの仲間たちもパレードの盛り上げに 一役買っていました。

フォーラムの体験談では、覚醒剤使用で逮捕された元 議員のホソカワさんの話が心に響きました。私も地方紙 などの記者をしてきたので、よく国会議員や地方議員、自 治体の首長などの仕事ぶりを身近で見ることがあっただ けに、「いくら『先生、先生』と周りからおだてられても、本 当は孤独なんだ。孤独だから覚せい剤に手を出したん だ」と感じました。

ゲストトークでは、マーシー(田代まさし)さんが、時 折ジョークを交えながらも「府中刑務所を出所して3年 目。出所して3年目は一番あぶない時期。いつスべって (再使用して) もおかしくない。それでも講演させてくれ るのは、俺の回復を考えてくれていること」と、栗原セン ター長や近藤恒夫さんに感謝する場面が見られまし た。また、「中学の時にシンナーを吸っていたので罪悪 感なく始めてしまい、すんなり(覚醒剤を)止められると 思ったが甘かった。全てを失くして借金も何千万も残っ ている」と自身の過去の過ちを振り返るのが強く印象に 残りました。

近藤代表が「クスリを止めるには友だちを作ること」と の提案が、私の中で気にかかりました。なぜなら"就職氷 河期世代"とも呼ばれる私たち団塊ジュニアは、「他者と の競争に打ち勝ってナンボ…」の価値観で生き、高校・大 学受験から就職活動、果ては社会人になってからもひた すら競争一辺倒でした。同世代の中には孤独や疎外感か らの「生きづらさ」を感じて社会からドロップアウトする 人もいました。仲間の話の中には私と同世代(41歳)近 くの人もおり、通じるものを感じ取れました。「もしかし たら自分も依存症の世界に入り込むかもしれない」とい う不安が頭の中をよぎりましたが、私にとっては「"なぜ 人は依存症になるのか"を考えるきっかけ」になった有意 義なフォーラムでした。



「ダルクはフランチャイズにしたらダメだ」 という自戒

――前回、近藤さんは「俺のできない夢にチャレンジしている」と栗原センター長の取り組みを評価してくれました。その流れで引き続きお話ください。

近藤 俺にはな、ダルクを始めた時から「ダルクをフランチャイズにしたらダメだ」という自戒があるんだよ。よくあるだろう。外食チェーン店のように、司令塔の本部が認めたものにお墨付きを与えて一定の営業圏を認め、そのロイヤリティ(使用料)を吸い上げるのが…。あんなシステムだったら、こんなにダルクは増えていないよ。

一近藤さんだけでも 3、4 つダルクつくったでしょう。 近藤 ダルクはただ増えればいいってもんじゃない。き ちんと回復のプログラムに取り組める環境がないと行き 詰る。そりゃあ俺だって人間だから、ダルクの中には嫌い なやつもいる。正直こいつだけにはスタッフやらせたく ないなあ、というやつもいるよ。でもな、俺がボスになっ て権力者のように振舞っていたら、とっくにダルクは行き 詰って潰れている。

栗原 意外ですね。近藤さんって好き嫌いのない人だと 思っていました。

――そうですよね、近藤さんは絶対に他人を批判したりし、悪く言わない人だ、っていうイメージがありますけど。僕らは、近藤さんは怒りを知らない人だと思っていましたから…。

近藤 それは買い被りってもんだな。ダルクをつくった 俺が他のダルクに干渉して、感情的に物事を処理したり、 好き嫌いで対処するのはよくない。企業の創立者なら失敗を恐れるから、失敗させないように社員をコントロールするだろう。それは支配と従属の関係だな。ダルクではこれはよくない。命取りになる。俺は性格的に人にコントロールされるのが大嫌いだし、人を管理するのも大嫌い。自由にやるのがいいに決まってる。

依存症者は有頂天になっている時が 神から一番遠くにいる

――そのポリシーがうまくダルクに反映されていますよね。でも、中にはリーダーの持ち味や性格が反映しているせいなのか、コントロール色の強いダルクもあるように見えますが…。

近藤 この30数年でいろんな色合いのダルクが増えたな。創立者の立場から言うなら、カリスマみたいな存在に祭り上げられると俺達は道を間違う。少なくとも俺には、その警戒心がある。先生って祭りあげられるのは気分がいいかもしれないけど、依存症という病気にとってはこれが一番怖い。

栗原 こんな私でも請われて講演などに行くと、いきなり「栗原先生!」って言われて面食らいます。半分は社交辞令だと分かっていても、気分は悪くないですね。でも私は、「それだけは勘弁してほしい」って必ず断りを入れてます。そういう風に祭り上げられると、つい自分を見失ってしまいますからね。なんたって私達依存症者は有頂天になっている時が神から一番遠くにいる状態ですから…。

――でも近藤さんは立志伝中の人みたいに、否応なくカリスマ扱いされてますでしょ。

近藤 ある意味、岩井(喜代代・茨城ダルク代表)もな。でも、マスコミがどう扱おうが、もてはやそうが、カリスマはダルクにはいらない。あいつは今のまま、小うるさいオヤジでいいんだよ。いつの間にか上から目線でダルクや仲間のコントロールに走ったり、よくある国に物申す圧力団体のようになってはいけない。圧力団体にならないっていうのは、組織化しないことだから。これはダルクの生命線とも言える。

―― 反組織というかダルクの非組織化は、会社に代表されるヒエラルキー (段階的な組織構造造)に基づくピラミッド型スタイルの対極にあるもので、権力構造を無化する大事な要素を秘めていますよね。

玉虫色でニュートラルだからこそ ヤク中、アル中が救われる

近藤 だって、そんなシステムを使うのは頭のいい奴が一番得意なやり方だろう。少なくとも俺達のやる事ではない。そんなの、役人のようなクレバーな奴が出てきたらダルクはひとたまりもないわな。きちんとした基準や規約を作って、いつの間にか急所を握られて、簡単にコントロールされちゃう。我々ダルクはあくまで玉虫色でいいんだよ。ニュートラルだからこそヤク中、アル中が救われる。とらえどころがない団体だから敵も生まれない。敵をつくらないから、いつもダルクは扉を開けっぱなし。来る者拒まず去る者追わずの怖い者なし状態だから、行き場のない困った人達がみんな集まってくる。

――そうか、だから近藤さんの顔はいつも柔和なんですね。

近藤 この顔は生まれつき(笑)。とにかく俺にはカリスマなんて自覚はないし、その必要もない。いつも、これだけですよ、これが素顔ですよ、ってな。俺だって生身の人間だから間違いは数多い。むしろ間違いばっかりの人生だよ。そうした事に絶えず反省を加えないと、カリスマに祭り上げられて自分が無意識に変貌していく危険性があるからね。そうなると、自分達を棚に上げて地域が悪い、社会が悪い、やがては国が悪い…となる。そうした傾向を俺達はどこかに持っている。まずは自分の回復が第一だという目的を根底にしっかりもっていないと、つい流されてしまう。危険性をはらんでいる存在という事だな。

――ところで、ダルクって子育てと似たようなところがありますね。今のような少子化社会だと、つい親達は先回りして「転ばぬ先の杖」を演じてしまう。我が子の失敗を極端に恐れる傾向があります。でも、本来人間って失敗から多くを学び、成長する生き物ですよね。

「栗原にダルクを名乗らせない」 と批判した岩井さんに感謝

近藤 ダルクは失敗に寄り添う居場所だから、失敗の経験から多くを学んでいく。失敗の数だけ成長していく…のが理想だけど、実際にはあまり学んでないかな。潮騒について言えば過去の一時期、名前の問題で相当もめたけど、ユタカが岩井のところにくつつかなかった事は結果的に良かったんじゃないか。

栗原 そうですね。お蔭で岩井さんとは違う道を歩んで来れましたから。そういう意味では私を「潮騒はダルクではない」「栗原にダルクを名乗らせない」と批判してくれた岩井さんには感謝しています。過去にはぶつかりましたけど、その失敗が今に繋がっています。潮騒として自立できた訳ですから…。

近藤 ユタカは俺が持ってない能力を持っているから、あの時にはダルクでなくてもやっていける、という直観が働いたのは確かなんだ。潮騒がふつうのダルクになってしまうとユタカの持つ自由度が生かされない、ユタカの良さがなくなってしまうんじゃないか、つてな。俺がユタカから相談受けた時には既に茨城にはダルクが2つ(神栖市、結城市)あるから、もうダルクはいいだろうと考えた。むしろ、ダルクの枠や縛りのようなものに囚われない方がユタカの潜在能力が生きるんだろうな、っていう密かな期待があった。その方がユタカが目指す出口問題(社会復帰)の部分に目を向けられるだろう、と。まあ、その読みは結果的には良かったんだろうな。

――ハイヤーパワーは新たな分野への挑戦を栗原センター長に促した訳ですね。

近藤 俺には既存の厚生施設のように、国にコントロールされ、順守事項にがんじがらめになってしまうと面白くない、っていう思いがある。組織じゃないんだから、ダルクはもっと自由度を生かしてダイナミックにやればいい、自分達のイメージを膨らませて個性豊かにやればいいのになあ、って思うんだ。そういう意味では、ユタカがいいタイミングで登場してくれた。そもそもダルクには、あっちが正統でこっちは異端という発想はない。それを判定するレフェリーもいらない。今、ダルクが必要かどうかだけが基準。時代が求めれば施設となる。先読みして生き残る必要もない。これが俺のポリシーだな。

栗原 私の事で付け加えるなら、トムさんという優れた 回復(途上)者をスポンサーに頂けたのがよかったと感謝 しています。

――そこからは次号でお願いします。(司会進行·広報部)

受刑者からの手紙

「潮騒の運営が物凄く大変だ」との指摘には私も同感

その後、お変わりありませんか? 直ぐに御返事をと思いながらも、実は切手が無くなり今日まで遅くなってしまいました。切手が手に入ったので、早速こうして手紙を書いています。お忙しい中、栗原センター長が手紙を書いて下さる事、そして文中にある事に対しては、いちいち「もっともな事だ!」と自分に言い聞かせております。悪循環の元凶である覚醒剤はもう懲り懲りです。潮騒に行っても2度と手を出さないよう決意しております。

話は変わりますが、"潮騒通信どっこい生きてます"の中で栗原センター長が披歴していた、「潮騒の運営が物凄く大変だ」というご指摘を読ませて頂きまして、私も同じ意見です。100人以上の、しかも私と同類の皆がセンター長にブラ下がっているのですから、ご苦労をお察し申し上げます。どうかこれからも御老体?にムチ打って頑張って下さい。当方も秋には運動会等、色々な行事で賑わいました。今は昔と違い、祝日薬や食事が随分と良くなり雲泥の差です。なので旨さを堪能している今日この頃です。本日はこの辺りで失礼させて頂きます。

(兵庫県 S・Y)

チャレンジする事で自分自身をチェンジしていきたい

先日、委員面接が終わりました。「いよいよ、潮騒での生活が始まるのか」と思うと、心がワクワクしています。「どっこい生きてます」内の編集後記の言葉ではありませんが、「回復の権利」を行使したい、と思っています。何度でも失敗を認め、生き直しを肯定された稀有な空間の中で、DARCの中でしか救われない一群の仲間としての第一歩が近づいています。あくまでも平等であり、従属する事も、支配される事も、依存する事も無いDARC。近藤(恒夫)先生が「DARCはスタッフが潰れてもDARC自体が潰れた事は無い」と仰っていました。

大人数の仲間と共に生きていく私。"今までに無かった選択が正しいものだ"と、5年10年後に笑いながら感じたいです。私の居場所が見つけられないとしても、目指す方向は同じだと思うし、生きるヒントは必ずあると信じています。不安な気持ちを打ち消す事は出来ませんが、チャレンジする事で自分自身をチェンジしていきたいです。「明るい未来」があるのかは、約束されたものではありません。唯、自分に与えられた時間が存在するだけです。長くもあり、短くもある時間の使い道は、自分次第。有効活用する事を心掛けて、一日一日を大切にしていく事が大事であり、それが"回復に繋がる"と思っています。健常者としての生活は望めないものですが、今は"自分の足で立ち"、"自分の手で物を掴み"、"自分の言葉で意思を伝えて"います。薬物依存症である私、この呪縛から逃れられないのであれば、最後まで戦うしかない。何度敗れても立ち上がり、進むしか道は無い。だから、負けも無ければ勝ちもない戦いになる。

それを理解するのが、DARCの生活だ、と思って居ます。仲間の生活ぶりを見ながら、参考にしながら、道を極めていく。栗原センター長を始め、潮騒のスタッフ、仲間のお陰を持ちまして、生きる事を諦めずにいられるようになりました。本当に有難うございます。これから先も、何かとご迷惑をお掛けする事と思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

社会のカオスは深まるばかりですが、それでも人間社会は楽しい。諦めないで前を向いて歩く。歩く事だけが私に残された自由。犯罪者であっても、依存症者であっても、歩く事は許される。自分の人生をひたすら歩き続ける。せっかく生まれて来たのだから、その証だけは残したい、と思って居ます。秋深まる今日、くれぐれも御躰、御自愛下さい。 (茨城県 H・N)

受刑者の手紙に「戦い」の文字が散見されます。依存症の回復は薬物やアルコールなど依存対象に対して自分は無力だと 認める境地に立てるかがポイントで、白旗を上げて果てしないパワーゲーム(=戦い)から下りる事です。釈迦に説法かもし れませんが、意志の無力を悟り神(ハイヤーパワー)に自分を委ねる事が回復の始まりです。

[標準表表表記名][基本的學科基本的學科基本的演绎 医多性眼球性动脉 电电阻电路 医皮肤 医皮肤 医皮肤性 医皮肤性 医甲基甲基甲基

昨年同様に"体育委員と 応援団長"を兼任し練習に励む

センター長、その後如何お過ごしの事でしょうか? 私は現在、秋季運動会に向けた練習で大忙しです。昨年同様に"体育委員と応援団長"を兼任し、運動時間以外に昼休みにも毎日、応援の練習に励んでいます。8名によります、1分半の時間内で演技を競うのですが、全員の動きを指先まで合わせるダンスパフォーマンス的な応援合戦ですので、私はその"演技構成"を考えるのに、大分前から時間を掛けました。

今では最高のチームとなり、心強く思っています。舎房内のある仲間は、「あなたの為にも頑張る」と言ってくれ、本当に感謝の日々を送る事が出来ています。この時期、潮騒の皆さんもフォーラムの練習に励んで居る事と思いますが、一つの事に向かって協力し合って団結し、物事に取り組む事の素晴らしさを感じます。私達のような依存症問題を抱える者が、いつの間にか忘れてしまった達成感による感動を味わえる事に新鮮さと喜びを感じます。

ここでは、定期的に"職業訓練"の募集がありますが、最近になって、「ビジネススキル訓練(パソコン学習)」が始まりました。私は、工場の計算工を任されていますが、今までにどんな訓練の募集があっても希望した事はありませんでした。しかし、このビジネススキル訓練だけはとても興味があります。残刑がまだ 1 年半余りですので、来年もしチャンスがあれば希望してみようと思います。

潮騒通信を、毎回楽しく拝読させて頂いていますが、仲間の皆さんが回復するために協力し合って前を向いて頑張っておられます姿を拝見する度に、どれだけの"勇気"をもらっているか分かりません。毎回シゲさんが書いて下さる手紙にも励まされ、私はこうして"前を向いて頑張って"受刑生活を送る事が出来ています。どうか、これからも宜しくお願い申し上げます。

(兵庫県 S·Y)

ボール運び3位の悔しさを 忘れず、これからの生活に活かす

栗原センター長、スタッフの皆様、元気で活躍されている事と思います。私も今月でやっと3類に復帰して、毎日充実した生活をしておりますので安心して下さい。運動会も無事に終えました。今年はボール運び競争は3位でした。私は悔しい思いでいますが、そんな中でも親父が「良く頑張った」と言ってくれ、心にとても熱いものが流れました。嬉しかったです。皆も良く声が出ておました。今年で4連覇ならず、3位はとても悔しい思いです。この悔しさを忘れず、これからの生活に活かしていきたい、と心に誓い回復の道へ、と進んで行きますので安心して下さい。

話は変わりますが、あと2カ月で満6年 になりますが、其方の「どっこい生きてま す」を読ませて頂いております。潮騒ジョブ を利用されていた、先に逝ってしまった仲 間の方々も、心の中に何かを残したまま亡 くなられたのではないか? と私なりに思い ました。まだまだ"幸せを掴むチャンス"が あるのではないか?と寝ながら考えるよう になり、気持ちが焦って来て色々と考える ようになってきました。とても不安な気持 ちでおます。私は今、此方で弁護士先生に 相談に乗って頂いていますが、弁護士の先 生も"潮騒に帰る事"をとても喜んでくれま したので、これからよく考えて「自分の進む べき道とは?」の"答え"を出していきたい と思って居ます。これから薬物やアルコー ルの教育があれば、前向きに考えていきま す。今とても不安な気持ちでいますので、 "良きアドバイス"を、センター長からの手 紙を待っておりますので、宜しくお願い致し ます。今回はここまでにします。

(長崎県 O·K)

しおさい・俳壇

12月のお題 年の瀬

選者桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.47

センター長 栗原豊

覚醒剤取締法違反で逮捕、起訴された私は浦和署から(今の)さいたま拘置支所に移送され、ここでトムさんからの第3信(手紙)を受け取った(平成12年3月)。「覚醒剤とアルコール依存症による幻覚妄想から逃れる方法を教えて欲しい」「どうしたら早く出所することができるか」…と日本ダルクのトムさん宛てにしつこく手紙を送ったものの、返って来た手紙は、ほとんど過去2回と同じ内容だった。相変わらず返信は早かったが、文面はさらに短くなり事務的になっていた。以下のように——。

「前略 お元気そうなので安心をしております。出所後の事ですが、色々とお悩みの事と思いますが、あなた様の経験が他人の役に立つ世界もあります。どの様にお役に立てるかは分かりませんが、何か相談に乗る事ができるかもしれません。ですから、必ず私共の事を忘れずに、出所後ご連絡を入れてくださいね。何はともあれ、お身体だけは十分に気をつけて、お過ごしくださいますように。またの便りをお待ちしております。 栗原 豊様/日本ダルク、坪倉洋一」

私はひどく失望した。というより、トムさんの手紙に一度は生きる希望を見出していただけに、その反動から今度は私の中に、トムさんにひどく裏切られたような、面白くない感情が芽生えた。それは次第に恨みがましい悪感情に替わり、「結局はダルクなんて今の苦しんでいる自分には、少しも役に立たないんだ」「もの分かりのいい、あの文面は見せかけだったんだ」と落胆した。

裁判長から有罪判決が言い渡され、前橋刑務所への下獄とともにダルクに対する関心など、いつの間にか完全に吹き飛んでしまった。後で分かったのだが、トムさんは受刑者と文通するために手紙を書く係を自ら進んで志願し、当時の私と同じような環境下にあった依存症の人達に対して、同じ依存症に苦しむ仲間達に少しでも希望のメッセージになれば、とたくさんの手紙を書いていたのだった。しかし、当時の私はヤク中特有の身勝手な存在で、自分の事だけしか眼中になかったから、トムさんの苦労に少しも思いを馳せる事が出来なかった。

結局、私は満期出所までの3年間は刑務所という隔離空間に身を置くことで、有無を言わさず「断薬」を強制された。だが、何の事はない。この3年間で、またしてもクスリ(覚醒剤)が使え、アルコールが飲酒できる「健康な体」に仕上げられたに過ぎなかった。だから娑婆という自由な時間と空間に戻った時には、その健康体を傷め付ける事に少しも迷いはなかった。肝心な依存症という、心と魂の本質的な欠損部分は何らケアされていなかったのだから、再使用・再飲酒は時間の問題だったのだ。(次号に続く)

心とく便りや牢の冬日向 / 快楽の終の業苦や冬の牢

4

<

句です。思い、白 暮らし れるが、 い時代でもあり、 八の幸せ 自分も老い が 平凡ながら昔 は古来 番 幸せ かも の歳を重 年 から、 -の瀬の 知 0 ħ 様 博 ねることに胸痛む切々 寒 な に爺婆父母子供らが揃う 士 i, い日などに別れた子を か 大臣 今では離婚など多 か 富 豪など言わ 年の瀬や



が 品 末 や新 しい句です。 如き競りの声」 物毎に競りの声が勇ましい。 魚 市 や青果 年は特別 市 場は に活気づく。 があり、 休日以外 銚子の魚市を見たのが懐 殊に魚市など早朝から は 私にも 年 中 開 か 「初市の謡う れ るが 年

市場の競りも



のが懐かしく、今の子には可哀想な思いもする句です。学四年生の頃は竹馬、竹のスキー作りに夢中になった験などあり昔の様に公園で遊ぶ子供も少ない。私も小忙な年の瀬も自由に遊べる。しかし今では習い事や受幼稚園か小学生も三年生くらいまでは、大人には多

年の瀬や





ろうか。年の瀬の多忙の中にも自分を省みる

事を報じる。今年は地震、台風、選挙など多

年末になると新聞やテレビでも今年の出来

い年であった。人夫々に思いの深い事は何だ

は良い事で、実感の句です。

秀逸句 月の

とむ

年の瀬に に

ゆーみん

諧の面白い表現の句。 出が多く何の用事かと思うが、小林一茶にも の中に居たい思いになります。無用の用も俳 「年の市何しに出たと人の言ふ」があり、普段 人で居ると用事が無くもふらりと賑わい 都会の繁華街では昼夜を問わず若者の人

心も潮や 大掃を

おの

越

えたくなき

老いの歳

め

実の句でもあります。 心も清らかになるし、そう在りたいと願う切 えなども行う。その綺麗にした部屋に休むと 年を迎える思いで部屋の隅々や障子の貼り替

大掃除は盆前にも行うが、年末は格別に新

れも思う句です。

りますが、若いのが夢もあり良い。少しの哀 くない。若さにも老いにも夫々に味わいがあ ど迎えたり老人会の仲間に入ると歳も数えた

入り夢を叶えたい思いがありますが、定年な

子供の頃や二十歳前は、早く大人の仲間に

搗を

年の瀬や

あお

顧る

じみとした句です。 の餅搗きも何年の昔か、 が多いが、会社や幼稚園など年末に行う。そ ちつき)をしたのが懐かしい。今では買うの 用の餅。私の田舎でも朝から夕方まで餅搗(も 餅は年中あるが、俳句では冬の季語で正月 幼い日を顧みてしみ

しい。親とは何か、と自問する句でもあります。 よりの楽しみだが、夫々の事情で会えぬのは寂 食べながら四方山の話や孫の育ちを見るのが何 まこ 盆正月には遠くの子供達も帰郷して、 子供に会えぬの瀬や 寂しさよ お節を

1主作	
炬燵から出れなくなりて怠け者	なん
クリスマスサンタ待ちしも子の日かな	みにー
年の瀬や家の隅々きれいにね	くま
年の瀬や友も忙し顔合わす	れいこ
人の言う年の瀬吾に何も無し	しま
年の瀬や家族と共に過ごしたき	あきら
年の瀬や家族揃いて大掃除	みく
年の瀬や我家へ帰る急ぎ足	ちゃこ
年の瀬や発表を待つ宝くじ	かこ

年の瀬の忙し先ずは大掃除	いるか
懐かしや家族と在りし年の暮	ゆうこ
年の瀬に田楽食べて美味きかな	あっちやん
仲間とも回復誓ふ大晦日	ぴのこ
年の瀬や街にみんなの急ぎ足	ひろ
年の瀬や遥か故郷を懐かしむ	あお
年の瀬や電池残量警告灯	ゆたか
冠雪の富士を右手に駿河湾	ゆたか



私も生きてます~我が回復記~「ブーちゃんの回復記」

第12回

本格的な入院生活の始まりと生活保護受給をめぐる葛藤

2009年11月に離婚して妻子と別れ(愛想を尽かされたのですが…)、僕は何もかも失って独りぼっちになりました。お手上げ状態となり戻る家もなくなった事から、とりあえず住む場所は確保しなければなりません。このため同年暮れからアルコール病棟と依存症治療プログラムのある東京・多摩地域の精神科病院に入院し、ここに住所を移しました。不本意ながらも、その後通算10回に及ぶ僕の入院生活の始まりです。そして投げやりな気持ちのまま4月には福祉(生活保護受給)に繋がることになります。そこには最後のセーフティーネットとされる生活保護について、軽く考えていた自分がいました。今回はその辺りの話です——。

居場所確保のような形で入院したものの、2010年1月には手放したモツ焼き店の債務整理の書類が送られてくるなど、自分がしてかした厳しい現実の後始末に向き合わなければならない状況のなかで、家族も経済基盤もない僕は相談を受けていた担当のケースワーカーから生保受給を助言されました。しかし、「働ける身なのに、何でこの俺が生活保護なの?」と、この期に及んでも僕には福祉の世話になることには抵抗感がありました。だから入院中は、できるだけ同年代の若い人達の意見を聞く事に心がけ、「もう働けないから生保に頼るしか仕方がないんだよ…」と諦めの境地にある、年配のアル中患者とは距離を置くようにしていました。「俺はその気になればまだまだ働ける」「この病気さえ良くなれば社会の第一線で活躍できる」と強弁し、のらりくらりと駄々をこねていました。

この時の僕は、アルコール問題によって日常生活は完全に破綻しているのに、まだ健常者のもつ矜持(=プライド)を捨てられずにいたのです。アディクト特有の違い探しによる自己正当化と、目の前の厳しい現実からの逃避でした。結局は自分の無力を認める事ができず、「そこまで俺は落ちぶれてはいないよ」と都合よく思い込んでいたにすぎません。でも、入院費の支払いなど現実は待ったなしの状態で、仕方なく「これは一時的な緊急避難の措置だから、その気になればいつでも抜け出せるはず」「長くても半年か1年もすれば、生活保護受給はやめられるだろう」。そうしたアル中特有のへ理屈で、僕はしぶしぶ生保受給を受け入れました。でも、国民の血税で支えられている有難いこの福祉制度によって、僕は今もって潮騒JTCにおいて依存症の回復プログラムに取り組む環境が保障されているのですから、当時の僕はなんて高慢だったのだろうと情けなくなります。この福祉制度の恩恵には感謝しかありませんが、同時に脱却の難しさも痛感させられています。



12月のバースデイ

د<



眠い

まさお



今日一日

えん



またつまらぬ歳をとってしまった。

7_



頑張ります!! 農業

来年の「潮騒リカパレ& 13周年フォーラム」は12月2日

来年の事を言えば鬼が笑うとされますが、2018 (平成30)年の「潮騒リカバリーバレード&13周年フォーラム」は12月2日(12月第一週の日曜日)に決まりました。会場は同じ鹿嶋勤労文化会館(鹿嶋市宮中)です。少し早いですが、今からスケジュールに入れて頂ければ、と思います。

今月号でも特集しているように、フォーラムのマンネリ化傾向を改めながら新たな試みとなったリカバリーパレードとのドッキングを、来年の13周年フォーラムでも追求する方向です。今後1年間を掛けて、スタッフが参加するプロジェクト会議で話し合いを続け、ふさわしいテーマを決め具体的な内容やプログラム進行などを詰めていきます。フォーラム自体は今回と同じように午後の半日プログラムとして、前段で潮騒リカバリーパレードに取り組みます(正式な決定ではありませんが…)。パレードコースもさらに距離を延ばして、鹿嶋市のメインストリートを潮騒旗やリカパレの幟をたなびかせながら、依存症の回復をアピールしたい考えです。

参考までに今年の12周年フォーラムで実施した参加者アンケート結果では、「連合エイサーが素晴らしかった」「仲間の話に希望と勇気をもらった」など、おおむね好評な意見が寄せられました。「難しいけど芸能人向けのダルクをつくりたい」としたマーシーについて、「ぜひマーシーハウスを実現させたい」「みんなの応援を結集できないか?」という意見が目を引きました。

12の行事

12月7日 潮騒俳句会

12月10-16日 秋元病院メッセージ

12月16日 JA 直売所感謝祭

12月17日 潮騒家族会

12月24日 潮騒クリスマス会

12月29~31日 年末施設大掃除

※下旬に年末恒例潮騒餅つき大会

1の行事予定

1月2日 潮騒初顔合わせ

1月3日 潮騒 NA バースデー

1月4日 鹿島神宮初詣&潮騒新年会

1月12日 ボーリング大会

1月14-20日 秋元病院メッセージ

1月27日 アディクション関連問題検討会 (北関東薬物関連問題研究会)

1月28日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方(12月15日現在)

· 武田 志保様 · 上田 礼子 様 · 内堀 高良 様

·安野 勇 様 · 石井 照明 様 · 匿名希望 様

· 土屋 幸枝 様 · 本間 歯科 様

・松倉中央クリニック 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。

今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い 申し上げます。

- ※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありが とうございました。
- ※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

今月号は潮騒 12 周年フォーラムの総特集となりました。内情を 打ち明けると、全体のプロデュース役を与えられた僕の立場から悩 んだのはフォーラムテーマの「義理と人情と神の愛」をどうしたら掘 り下げられるか、ステージで体現できるだろうか、という難しい宿 題でした ▼各地のダルクフォーラムでも多様なテーマが設定され ますが、そんなに熱心な議論はないようです。ましてやテーマを忠 実に追求するフォーラムは珍しいといえます。あたかも大学の建学 精神のように抽象的で、首にぶら下げた標語みたいな扱いでいいの かもしれません。僕には今回のテーマは栗原センター長の生き様 が潮騒で見事に開花している事を、客観的に捉え返したいとの思 いがありました ▼ご承知のようにセンター長は人生終盤になって 依存症の回復に踏み出す前は、その大半を任侠道に捧げました。 「いくら強弁しようとも世間から見れば否定されるべき過去だか ら、私は元ヤクザを売りにしたくない」と多くを語りませんが、就労 支援に力を入れる潮騒では過去の経験や職業で得たノウハウや良 い部分は受け継ごうという考えです。では、ヤクザという生き方か ら学べる部分はあるのでしょうか―― あります ▼センター長が本 号随想で触れているように、突き詰めればヤクザの生き方の基本 は「義理を返す」ことです。受けた恩義を倍にして返す、きるだけ義 理を受けない生き方を目指すことにあります。今や社会のあちこち で人間関係が希薄になり、"水臭い"付き合いが関係の潤滑油という 世の中にあって、こうした情緒的な人生観は忌避される傾向を感じ ます ▼昨今の「気楽に、身軽に」という人間関係の処世訓は依存症 の回復セオリーにも通じますが、一般に依存症の人達は恩義に報い ることが苦手です。自分の回復だけで飽和状態だからです。でも、 ある程度回復のレールに乗れて、心に余裕が出てきたら12ステッ プの「棚卸」作業ではありませんが、仏教の「報恩感謝」精神にある ように「義理を返す」 ことにも取り組みたいものです ▼そのスタイ ルは多種多様です。過剰な義務感や責任感からではなく、肩ひじ張 らずに自然体でできるようになれば、しめたものだと思います。ま してや「依存症に苦しむ自分達を重んぜよ」という態度は論外です。 日本社会は贈与文化が根強いので、昔気質でもセンター長の主唱 する「義理を返す」ことの意味合いを見直したいと思います。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2017年12号

Contents

- P2 「仲間の力を結集して実りあるフォーラムを実現」
- P❸「潮騒リカバリーパレード& 12周年フォーラム」
- P4 12周年フォーラムから見えた栗原流ビジョン NPO法人・潮騒JTC理事 白田美鶴さんのフォーラム解説
- P ⑤ 地元警察との交渉役を任され舞台裏の苦労を実体験する 潮騒JTC・トム感想文
- P6 潮騒リカパレ&12 周年フォーラム:仲間の感想文
- P **7 「なぜ人は依存症になるのか」を考えるフォーラムに** 「NEWSつくば」スタッフライター 崎山勝功さんの感想文
- P® 近藤恒夫インタビュー 第6回 「潮騒がダルクになってしまうとユタカの能力は生かされない」
- P10 受刑者からの手紙
- **P12** しおさい俳壇 12月のお題「年の瀬」
- P14 どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」/ 12月のバースデイ
- P15 行事予定 / 編集後記 / 献金·献品 / 目次



■編集·発行:

特定非営利活動法人 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館 (潮騒アディクション・ケアセンター)

〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5 TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/



発行所 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価 100円(会費に含む) 1998年10月9日第三郵便物認可(毎月3回8の日発行)2017年12月10日発行 SSKU増刊通巻第5955号